

《大学》

鹿児島国際大学

【「自分の言葉で表現できる」学生の育成】

取組の概要【１ページ以内】

【取組の背景・目的】

採用担当者の印象や本学職員の現状認識を踏まえると、本学には、「話す」と「書く」という違いを超えて、「自分の言葉で表現できる」学生が必ずしも多くないといえる。こうした状況は、直ちに改善する必要がある。学生が「自分の言葉で表現できる」か否かは、人事選考の結果にダイレクトに影響を及ぼすことになるためである。本学学生にとっての就業力の向上とは、まさに「自分の言葉で表現できる」ようになることを意味する。そこで、「大学時代に取り組んだことを、自信を持って、『自分の言葉で表現できる』学生を育成すること」を本取組の目的とする。

【取組の具体的内容】

上記の目的を達成するために、本取組では全学的な教育改革を行い、学部・学科教育の中心に、「自分の言葉で表現できる」学生の育成に焦点をあてた段階的かつ連鎖的なプログラムを構築することに取り組む。具体的には、「経験提供」と「能力形成」を学生に保障するという観点から、「オムニバス講義」「フィールドワーク」「演習」という３つの科目（群）に焦点を絞り、各科目（群）の再編・改革を行う。それと同時に、これらの３つの科目（群）を一連の活動として明確にリンクさせる。以上のような取組によって、「自分の言葉で表現できる」学生の育成を試みる。取組の主たる内容は、以下の通りである。

- ① オムニバス講義「地域創生」の再編：経済学部の学生のみを対象に実施されてきた同科目（県内外の実務家などが、実体験をもとに働き方や生き方のヒントなどについて話す講義）を再編し、新たに平成23年度から、全学的に展開する。
- ② フィールドワークの改革：４タイプに大別したフィールドワークのうち、「免許資格型」（教職・福祉職関係の実習などが該当）を除く、「探究型」「協同型」「実務型」の３タイプについて科目新設や既存科目の再編などを行う。
- ③ 演習の改革：新たに平成23年度から、全学で演習の「履修指定化」と、演習における「卒業研究の必須化」を実施する。さらに、「聴く力」「話す力」「考える力」などの形成に有効な演習の活動や方法について、検討・共有化を進める。
- ④ Webキャリア・ポートフォリオの活用：上記のような３つの科目（群）の履修を通して、どのような経験や能力が形成されているかを、学生自身が確認できるようにするために、新たに平成23年度から、Webキャリア・ポートフォリオの活用を開始する。

【取組の実施体制】

本取組を推進するための新たな組織として、平成23年度に「プロジェクトオフィス」（仮称）を設置する。同オフィスを中心として、フィールドワークの内容開発やフィールドワークの活動受入先の開拓・選定、Webキャリア・ポートフォリオのシステム構築・改善などを行う。

５年間の財政支援期間中に、上記のような取組を着実に実行する。それと同時に、PDCAサイクルによる評価・検証を徹底化し、本取組の有効性・妥当性を高める。５年後には、「自分の言葉で表現できる」学生を育成するための効果性の高いプログラムを、社会や他大学に向けて提案する。

《大学》

鹿児島純心女子大学

【地域貢献活動に挑み育つ就業力】

●建学の精神に根ざす就業力育成へ向けて

「キリスト教的ヒューマニズムに基づく全人教育」を建学の精神とし、「いのちを育む知性と愛」を教育理念とする本学は、聖母マリアを理想に、豊かな人間性に裏打ちされた高い知性と専門性を備えた女性の育成を目指している。雇用情勢の悪化が深刻な社会問題となり、ややもすれば若い世代の働く意欲さえ失われがちな今日、健全な勤労資質を養い就業力を身につけさせることが、有能で品位ある女性職業人の育成を社会的使命とする本学にとって、喫緊の課題である。

●地域貢献活動の経験を核とする勤労資質の涵養

良好な人間関係の構築力、新たな発想を生む企画力、設定された課題を完遂する運営力等、優秀な職業人に備わる資質は、何よりも実社会における具体的な経験の蓄積によって育まれる。本取組ではまず、本学の位置する鹿児島県薩摩川内市に多く存在する「ゴールド集落」（65歳以上人口が半数を超える地域の本市での呼称）での世代間交流、市商工会議所等と一体となった市街地活性化のための取組等、地域貢献活動という形で学生と現実の世界との出会いの場が設定される。そこでは、自らとは境遇の異なる人々との接触の中で、学生が課題発見力・解決力、意思決定力、コミュニケーション力等から成るジェネリック・スキル、すなわち実社会で求められる汎用的能力を獲得することが期待されている。

それに併せ、体系的キャリア教育及び女性のための教養教育のカリキュラム改革と学修支援体制の強化が図られる。これらは全て、学生が実際の経験の中で自ら育んだ社会的自覚、すなわち社会の現実と根差す堅実な勤労観と具体的な人生目標等が相まって、学生のより主体的な勤労資質を涵養できる。

●就業力と「しなやか女性」

地域貢献活動に挑み、その中で獲得した資質、すなわち、愛（やさしさ）と教養（かしこさ）と問題解決力（たくましさ）を兼ね備えた「しなやか女性」こそ、本学が目指す就業力を備えた人材である。

